

のそいてみよ

ロタコの発掘調査

●滑走路

現在でも、脚跡が開設地上の所々に60数年前掘られた人々が造成した滑走路の盛土がそのまま残されている。平成17年度に実施した発掘調査の結果、当時の人々が滑走路両側の土を掘って滑走路に積み上げた様子がわかったほか、土が沈まないように締め固めたような跡も見つかり、当時の人々が行った作業工程を垣間見ることができた。



今も残る滑走路の盛土

用語解説

戦争遺跡 (せんそういせき)

戦争のために造られた施設や、戦争で被害を受けた建物などで、現在も残っているもの。かつての戦争の時代を物語る遺物であり、後世に伝えることで歴史の生きた教材になりうる。近年では保存措置が講じられたり、文化財として指定される事例も出ている。(Wikipediaから抜粋)

立川航空隊 (たちかわこうくうじょう)

東京の立川飛行場を中心に数多く配された軍直営の専用機生産施設、試作研究、生産技術の研究等を持った施設群のひとつで、主に航空に関する機材、燃料等の開発、生産、保存及び補給並びに航空に関する機材の部品区分及び修理を行ったとされる。

掩体壕 (えんたいこう)

敵の爆撃などから、飛行機を隠し、格納する施設。地域では一般に掩体壕と呼ばれているが厳密には飛行機用「掩体」が正しい。



松根油 (しょうこんあぶ)

マツの枝葉 (切り株) から得られる油状の液体。戦時中石油が枯渇する中、日本では航空ガソリンの原料として使うことが試みられた。

戦場遺産 (せんばのうりざん)

食糧増産のため、小学生などを動員して耕作放棄止、伐後地、河川敷、工場跡等特定の空閑地などを開墾して米、麦、大豆、ジャガイモ、サツマイモなどを栽培した学校直営の農場。南アルプスの北半分では、芦安・源・飯野・百田・八田・西野の各国民学校により昭和19年の暮らから、朝敵跡(河川跡)が顕露され、いよなどがつられた。

終戦後六十年余を経て、戦争の記憶は「ひと」から「もの」へと移行しつつある。戦争を体験した世代が少なくなり、体験者から直接話を聞くことができにくくなってきている現在、戦争遺跡の調査を行い、そこに残った戦争遺跡という「もの」を客観的に記録し、また遺跡それ自体を次代に残していく意義は年々増加している。

●2号掩体壕

平成18年度に発掘調査が行われた。調査の結果、形や大きさは3号掩体壕とほぼ同じであったが、用いられたコンクリートの質が極めて悪く、中には拳大の石が混ぜられていた場所もあった。



2号掩体壕全景



コンクリート製の基礎



調査風景

コンクリートに混入していた石

●3号掩体壕

平成17年度に発掘調査が行われ、掩体壕の形や大きさ、基礎の作られ方などが記録された。また、掩体壕が半地下式の構造で、底面にはコンクリートの床(スラブ)が打たれていることが明らかになった。



3号掩体壕全景



掩体壕の木の足場と基礎はこのような形式で建設されていた。



発見されたコンクリートの床

コンクリート製の基礎



調査風景

ロタコの記憶 ●ロタコを伝えるさまざまな資料たち

地域にはロタコを伝えるさまざまな資料が残っている。このジョレンヤツルハシ、食器などは、ロタコ工事に従事した朝鮮半島出身の軍属、労働者が、終戦後帰国する際に旅費がなくて困り、路傍の足しにと地域の農家に引取りを依頼したもの。出面表は当時動員された地域住民の出動簿。また、山梨県庁には、いまでもロタコに関する図面などが残されている。



ロタコ工事連隊乗務員出動簿(南・北両面提供)



実際のロタコ工事に使用した道具(ツルハシ)



ロタコの施設配置を描いた図面(山梨県蔵)

機材庫跡の位置と墳墓を示した図面(山梨県蔵)



朝鮮人労働者たちが使った食器

●もう少し知りたい方へー参考文献

- 南アルプス市教育委員会2007『ロタコ(朝敵河原町壕跡)』
- 南アルプス市埋蔵文化財調査報告書第13集
- 山梨県戦争遺跡ネットワーク編2000『山梨県の戦争遺跡』
- 山梨日日新聞社
- 白根町報1969『白根町誌』
- 十條誠文・菊池実樹2002『しらす戦争遺跡の発見』柏書房
- 佐藤2005『山梨のツルハシ(平林久雄)』山梨ふるさと会
- 平林久雄1982『敵戦時、山梨県白根町に掘り進んだ朝鮮人』『在日朝鮮人史研究』10号

遺跡で散歩

vol.5
MINAMI-ALPS CITY

戦争遺跡「ロタコ」を歩く

ふるさとの歴史をみつめよう

ロタコ工事に従事した朝鮮人労働者(朝鮮半島出身)の遺跡を巡る



ロタ子ばあさん

平成20年度埋蔵文化財保存活用整備補助事業
南アルプス市教育委員会 文化財課
☎055-282-7269

戦争遺跡 ロタコを歩く

●ロタコについて

今から60年あまり前のアジア太平洋戦争末期、日本陸軍によって御動使川扇状地上(現在の飯野・薬地区)にひとつの飛行場がつけられました。飛行場の名称は「御動使川原飛行場」といいましたが当時から、もっぱら「ロタコ」という暗号名で呼ばれてきました。

この飛行場は、東京の立川にあった航空機を疎開させ、敵から隠すための秘密飛行場として計画されたといわれ、大型機が離着陸可能な長さ1,500m、幅100mの滑走路を中心としてさまざまな施設がつけられ、御動使川扇状地の西側に沿ってそびえる山の斜面には、物置の保管や飛行機の工場するために数多くの横穴塚が掘られました。

ロタコの遺構は、広大な扇状地上の約800ヘクタールもの範囲に点在し、現在でもその痕跡をいたるところにみつけることができます。



ロタコとは、扇状地川原空襲を示す白根山の暗号名で、ロはイロハのロ、つまり羅2を意味し、タは立川、コは航空機を意味とわけています。



①三宮神社



滑走路南端にあり、御動使川扇状地上の敷かないランドマークとして、建設工事に動員された地域住民や学生の集合場所のひとつとなっていた。

③誘導路 1



ロタコ工事の際に作られた飛行機の誘導路のひとつ。戦後も「駅弁のた」とそのまま遺として使われていた。

⑤了円寺



徳島軍を作った徳島兵左衛門ゆかりの寺。兵左衛門のお墓もある。当時このお墓にも朝鮮人労働者が埋められていた。

ここに埋蔵した見学ポイントの多くは私有地です。土地への立ち入りについては、あらかじめ了解を得るなど充分注意してください。

②滑走路跡



冬に吹き下ろす「八ヶ岳屋」(やがたけおろし)を考え、八ヶ岳にむかって設計された幅100m、長さ1500mの滑走路。中央に設けられた誘導路は、今でも農道として利用されている。

④白根小学校



子どもたちが滑走路に敷き詰めて偽装するための木の枝の採集や、松根油を塗る木の根っここの採取などに動員された。

⑥薬山の横穴塚跡 1



現在も山の斜面のところが陥落している。

⑧扇形跡

扇形跡は、現在は全て埋まっています。この埋めやすくなる横穴塚の遺構は、ぜひ事前に現場見学の労働者ガリリ見せました。

- ロタコの施設 (建物・構築物)
- 山地
- 御動使川扇状地
- ロタコの施設 (誘導路)
- 大和川等者合扇状地
- 旧河津線
- 現在その痕跡がまったく見られないもの
- 沼水・利水遺跡

⑨徳島塚と掩体壕群

江戸の商人徳島兵左衛門が考案し工事に取らかり、後に有野の矢崎又右衛門が寛政10年(1670)に完成させた用水路。御動使川扇状地上の早稲地帯を潤した。終戦直前には、この徳島塚の堤防に沿って、1~3号掩体壕などは異なるこのような形の掩体壕が並んでいた。



⑩福王寺と横穴塚跡

横穴塚の近くにある福王寺の過去帳には、ロタコ工事でなくなった木材を一手に現在作っていた。現在は工事となりその面影はない。

●コースあんない 三宮神社～横穴塚～三宮神社まで 距離9.4km/時間約3時間

| | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|--------|------------|--------|------------|---------|-------------|---------|------------|-------|-------------|-----------|-------------|----------|-------------|----------|------------|---------|------------|------------|------------|------------|-------------|-------|------------|-----------|------------|---------|------------|---------|------------|-----------|-------------|--------|
| ① 三宮神社 | 0.1km / 2分 | ② 滑走路跡 | 0.5km / 9分 | ③ 誘導路 1 | 1.6km / 31分 | ④ 白根小学校 | 0.5km / 9分 | ⑤ 了円寺 | 1.5km / 28分 | ⑥ 薬山の横穴塚跡 | 0.7km / 13分 | ⑦ 山の横穴塚跡 | 1.0km / 18分 | ⑧ 徳島塚と兵舎 | 0.3km / 5分 | ⑨ 航空本部跡 | 0.2km / 4分 | ⑩ ロタコの製材所跡 | 0.5km / 6分 | ⑪ 航空本部跡と兵舎 | 0.6km / 11分 | ⑫ 常栄寺 | 0.5km / 9分 | ⑬ 1・2号掩体壕 | 0.2km / 4分 | ⑭ 3号掩体壕 | 0.2km / 4分 | ⑮ 誘導路 2 | 0.4km / 8分 | ⑯ 白根飯野小学校 | 0.6km / 11分 | ⑰ 三宮神社 |
|--------|------------|--------|------------|---------|-------------|---------|------------|-------|-------------|-----------|-------------|----------|-------------|----------|------------|---------|------------|------------|------------|------------|-------------|-------|------------|-----------|------------|---------|------------|---------|------------|-----------|-------------|--------|



徳島塚や扇形跡の建設には、飯野川西岸一帯から1日3000人が動員された。地味の小中学生や高専生が学舎(現在の平野第一)の学生も動員された。扇形跡は、扇形跡の1/4に作られて、みんなとて大穴を掘ることをしなした。



⑫常栄寺

飯野小学校が接収された机も、子どもたちは、机にすわるミカンパコを持ち寄って、このお寺で勉強したこともあったという。本尊の阿弥陀如来立像は県指定文化財。

⑬1・2号掩体壕

畑の中に残る掩体壕の跡。2号掩体壕は平成18年に発掘調査が行われた。

⑭3号掩体壕

平成17年にはじめて発掘調査がおこなわれた。

⑮誘導路 2

南半分は地域の人々が常栄寺にむかう「オチラミチ」を沿って、北半分は、ロタコ工事に關して新設された。新設部分は戦後にもとされた。

⑯白根飯野小学校

校舎が陸軍に接収されたほか、高等科の子どもたちは、男子は木工所、女子は製糸場に動員された。校内には、学生動員の記念碑がある。

⑪航空本部跡と兵舎



このあたりに航空本部が置かれた。現在その面影は殆どないが、本部敷地内にあった温室が兵舎に転用され、戦後温室にもとされて、現在まで残っている。

⑰ロタコの製材所跡

